

あさかそすい
安積疏水の工事につくした人々

あらたのし
田毎にうつる
月の影

小林久敬句碑



小林久敬

この句は、小林久敬ひさたかが安積疏水が完成したときの喜びよろこを詠よんだ句くです。

須賀川すかがわ生まれの小林久敬あいずは、仕事で会津地方に行くことが多く、猪苗代湖いなわしろこの近くを通るたびに水が少なくてこまっている郡山へなんとか水を引けないものかと考えました。

そこで彼は自分の全財産ざいさんを使って猪苗代湖から郡山までを調べたり、東京まで出かけて行っては、政府ふの役人に自分の考えを話したりしました。しかし、彼の考えかれはけっしてまちがっていませんでしたが、あまりにも熱中ねっちゅうしすぎたために国や県の役人からめいわくがられてしまい、考えを聞いてもらえませんでした。さらに、財産をなくしてしまったために、おくさんや子どもからも見はなされ、一人ぼっちになってしまいました。

現在げんざいでは久敬の考えの正しさがみとめられ、句碑くひと彼の行動あらをたたえる碑が荒池の近くにたてられています。